



平成30年度
活動報告書

akta 平成30年度活動報告書 目次

0. はじめに	2
1. community center akta -HIV/AIDSの総合的な情報の集約と発信	11
2. アウトリーチプログラム	24
3. 予防行動促進プログラム	30
4. ウェブを用いたソーシャルマーケティングプログラム	35
5. HIV検査普及プログラムと行政連携	45
6. Living Together -HIVのリアリティ伝えるプログラム	52
7. 調査・研究	57
8. おわりに	96

1

はじめに -首都圏の背景

1. 平成30(2018)年度 日本における
HIV感染者/AIDS患者発生動向
新規に1,389人のHIV感染者・エイズ患者報告。そのうち、HIV感染者は940件(前年 976件)であり、エイズ患者は377件(前年413 件)であった。累積で、30,149人が日本で報告されている。
新規陽性者のなかで、66.4%(875人) の人たちが 日本国籍の男性
同性間の性的接触での感染だった。
※ 厚生労働省エイズ動向委員会 [2018]「平成29(2017)年エイズ発生動向 一概要」
2. 平成30(2018)年度 東京都における
HIV感染者/AIDS患者発生動向
新たに報告されたHIV感染者・エイズ患者を合わせた数は422件で、
HIVが351人(前年367人)、エイズが71人(前年97人)と減少した。
性的接触による報告数は87.9%で、男性同性間性的接触による報告
数が74.4%と多い。
※ 東京都福祉保健局[2018]「AIDS News Letter : 平成29年東京都のHIV感染者・AIDS
患者の動向及び検査・相談事業の実績」, No.168.

2

はじめに -首都圏の背景

3. 啓発対象となる、首都圏に居住するMSM人口の推計
成人男性におけるMSM人口割合の推計 4.6%
※ 厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業[2013]「MSMの感染対策の企画・実施・評価の
体制整備に関する研究 平成24年度 総括・分担報告書」
東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県における成人MSM人口の推計
676,246人
※総務省人口統計(2011年10月報告)より、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県における成人男性
人口14,701,000人。
4. 訪日外国人の人数増加
2018年度の訪日外客数は、31,191,856人。月別で見ると、2018年3月が260万8
千人から、2019年3月の276万人と、5.8%増えている。また出国・地域別にみる
と、中国、韓国、台湾、米国、香港、タイの順番だった。
※日本政府観光局(JNTO)(2019年報告)
5. 東京を中心に男性間でA型肝炎の流行
東京都内における、2018年に入ってからA型肝炎患者報告数のうち、男性同性間
での性行為を感染原因とされる報告が増加し、年間で925件報告された。
また、2017年にはWHO(世界保健機構)は欧州や米国の男性同性間の性行為を感染
経路とするA型肝炎が流行していると注意喚起をしている。オーストラリアやアジ
アの国々でも現在、同様に流行しているため、海外旅行時には事前に予防接種を
受けてから渡航することが勧奨された。
※ウェブサイト「HIVマップ」,「東京中心に男性の間でA型肝炎が流行しています」

3

aktaの目指す予防啓発のあり方
Ending AIDS : 公衆衛生上の脅威としての
エイズ流行を2030年までに終結させるために

Combination Prevention コンビネーション予防

UNAIDSによる定義：
人権に基づき、エビデンスインフォームドで、それぞれの
コミュニティに根ざしたプログラムであって、バイオメディカ
ル(biomedical)、行動学的(behavioral)、また構
造的(structural)な介入の混合体であり、特定の
個人やコミュニティの今まさに必要とされるHIV予防の
ニーズに応じることを重視し、それにより、新規感染を
減少させることにとびきり優れて持続するインパクトをも
つものである。

バイオメディカル (BIOMEDICAL)

- ・コンドーム・ローション
- ・HIV検査
- ・Treat all
- ・垂直感染予防
- ・PrEPとPEP
- ・自発的男性割礼
- ・注射針・シリンジ交換

構造的 (STRUCTURAL)

- ・HIV媒介とキーポピュレーションの脱犯罪化
- ・ジェンダーとジェンダーに基づく暴力対策
- ・人権を守る法環境
- ・スティグマと差別を減らす介入

コンビネーション予防：
HIV予防のツールボックス



行動学的 (BEHAVIORAL)

- ・感染リスクを減らすためのカウンセリング
- ・包括的セックス教育
- ・ピア教育プログラム
- ・ソーシャルマーケティングキャンペーン

バイオメディカル (BIOMEDICAL)

- ・コンドーム・ローション
- ・Safer Sex Campaign
- ・HIVcheck.jp
- ・PrEPとPEP
- ・あんしん検査上野駅
- ・注射針・シリンジ交換

構造的 (STRUCTURAL)

- ・Living Together
- ・行政連携
- ・ジェンダーに基づく暴力対策
- ・人権を守る法環境
- ・スティグマと差別を減らす介入

コンビネーション予防：
HIV予防のツールボックス



community center
akta cafe
akta.jp
ALL JAPAN

行動学的 (BEHAVIORAL)

- ・感染リスクを減らすためのカウンセリング
- ・包括的セックス教育
- ・ピア教育プログラム
- ・ソーシャルマーケティングキャンペーン

DELIVERY BOYS

もっと自分のカラダのことを知ってみよう

HIVの総合情報サイト HIVマップ
H.POT HIV multilingual info. JAPAN

ゲイコミュニティの中から、ゲイコミュニティに向けて

地域でも世界でも、決然とした[政治的]指導力が求められていることに加え、HIV予防の新たな局面に対応するには**戦略的、戦術的な革新(ルネッサンス)**も必要だろう。

私たちがしなくてはならないのは、個々の介入やツールの限界を認め、最も効果的な組み合わせをそれぞれ小規模な流行に即して工夫すること、新規感染が多い地域や弱い立場に置かれている集団を見極め資源を集中させること、プログラムの提供を大胆に進めること、流行の拡大要因に変化があれば、戦略と対策を常に即応させることである。

ピーター・ピオット[2019]『エイズは終わっていない 科学と政治をつなぐ9つの視点』, 慶應義塾大学出版会, pp161-162

— 特定非営利活動法人aktaについて —

特定非営利活動法人akta

〒160-0022
東京都新宿区新宿2-15-13第二中江ビル302
電話:03-6380-0833 FAX:03-6380-0575
ウェブサイト: <http://www.akta.jp>
E-mail : info@akta.jp

役員:岩橋恒太(理事長)、荒木順子、柴田恵、
木南拓也、鈴木敦大、藤原孝大、江島啓介
監事:市川誠一、長谷川博史

事務所での定例会議:事務局会議、運営会議(ともに週1回)、理事会(随時)

— 特定非営利活動法人aktaについて 平成29年度 —

受託事業一覧

- ・ 厚生労働省 同性愛者等向けコミュニティセンター事業(公益財団法人エイズ予防財団受託):community center akta
- ・ 厚生労働省 同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業 HPによる検査相談体制等情報提供:HIVマップ
- ・ 東京都福祉保健局(公益財団法人東京都結核予防会) 東京都エイズ啓発拠点事業
- ・ 千葉県健康福祉部:HIV検査広報
- ・ 埼玉県疾病対策課:HIV検査広報
- ・ 新宿区保健所:HIV検査広報
- ・ 港区みなと保健所:HIV検査広報

寄付をいただいた団体・個人

ヴィーブヘルスケア株式会社他、団体、個人の方からもご寄付をいただきました。お名前の掲載は控えさせていただきますが、心よりお礼申し上げます。

9

— 特定非営利活動法人aktaについて 平成30年度 —

● 講師派遣

国立保健医療科学院、JICA、東京女子医科大学、東京医科大学、首都医校、慶応義塾大学、東京大学、千葉大学、熊谷保健所、埼玉県草加保健所、新宿保健所、鳥取県人権局、東京都福祉保健局、エイズ予防財団、ヴィーブヘルスケア株式会社、新宿区有志の会、埼玉県熊谷保健所、埼玉県草加保健所、新宿区保健所、TOKYO AIDS WEEKS 2018

● 外部委員会への参加

厚生労働省・公益財団法人エイズ予防財団「世界エイズデーキャンペーンテーマ検討会議」、東京都福祉保健局「世界エイズデーポスター審議会」、新宿区保健所「新宿区HIV/AIDS関係機関ネットワーク連絡会」

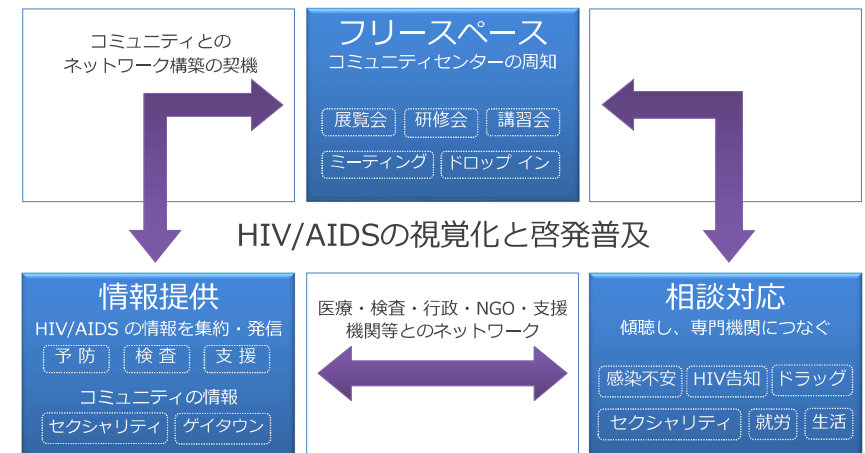
10

community center akta
—HIV/AIDSの総合的な情報の集約と発信

11

— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

コミュニティセンターの機能



12

ー MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 ー

コミュニティセンター akta

東京都新宿区新宿2-15-13第2中江ビル301

東京メトロ丸ノ内線・副都心線・都営新宿線 新宿3丁目駅から徒歩 3分

開館時間：16:00 - 22:00(火・水曜,年末年始除く)

スタッフ：常勤2人、非常勤6人、ボランティア：34人



(2018年4月から2019年3月まで)

総来場者：6,938人(前年6,941人 99.9%)

初来場者：1,507人(総来場者数の21.7%)

稼働日：249日

相談件数：74件

(2003年9月から2019年3月まで)

累計来場者数：122,399人

平成30年度「同性愛者等向けコミュニティセンターを活用した広報等一事業(厚生労働省委託事業)」を公益財団法人エイズ予防財団が受託し、新宿区新宿二丁目にあるセンターの運営をaktaが行っている。

約350軒の商業施設が密集するアジア最大のゲイタウン“新宿2丁目”で
ゲイコミュニティの中から、ゲイコミュニティに向けて普及啓発。¹³

コミュニティセンターの活動状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来場者数	582	595	590	533	611	753	744	595	430	527	446	532	6,938
来場者数 新規	103 (17.7%)	145 (24.4%)	91 (15.4%)	102 (19.1%)	172 (28.2%)	223 (30.9%)	162 (21.8%)	116 (19.5%)	85 (19.8%)	119 (22.6%)	101 (22.6%)	88 (16.5%)	1,507 (21.7%)

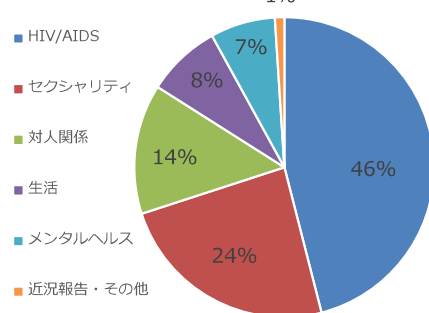
14

ー MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 ー

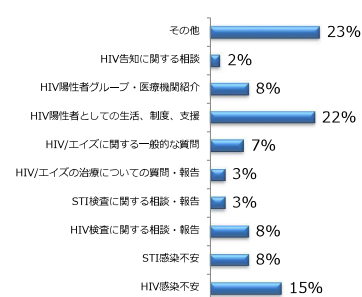
相談対応

セクシュアリティに理解のあるスタッフが
オープンスペースで対応し、支援リソースへつなぐ

相談内容の主訴(74件)



HIV/AIDSに関する相談 (60件)
※複数回答あり

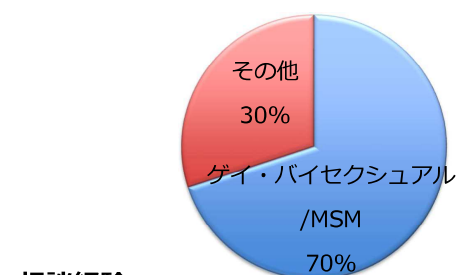


15

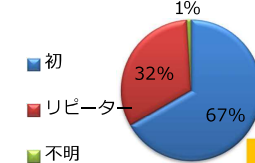
ー MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 ー

相談者の属性

セクシュアリティ

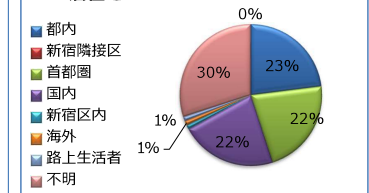


相談経験

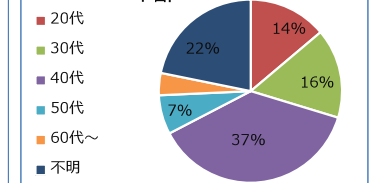


相談件数74件 (HIV陽性者の割合18.9%)

居住地



年齢



利用者の傾向など

- 来場者数及び初来場者数は前年とほぼ横ばい。
(HIVcheck利用者990件含む)
 - 2018年2月に実施した来場者質問紙調査では、リピーターの方が初来場者に比べて年齢が高く、陽性者割合は20.9%。またカミングアウト経験も多い。イベント等のきっかけ作りがリピーターの来場につながっている。
- LGBTs、トランスジェンダーや外国人の来場が増加している。



相談・情報提供

- 基本は常勤スタッフ（2名）が対応。臨時スタッフを含めて定期的に情報の整理と共有を実施。
- 貧困問題との関連ケースやダブルマイノリティが増加。外国人のための情報提供に課題がある。

17

スタッフ向け研修会

- ・増える傾向にあるトランスジェンダーの利用者に対してスタッフ側の準備性を高めるため、トランスジェンダーの基礎知識や経験について学ぶ
- 日 時：平成30年12月24日（月）15:00～16:30
講 師：浅沼智也氏（カラフル@はーと）、宮田りりい氏（MASH大阪）



意見交換会の実施

- ・相談場面で相互に紹介機会の多い「よりそいホットライン」（一般社団法人社会的包括サ会的包摂サポートセンター）と顔を合わせた情報交換・意見交換を行い、課題を知り現場の対応に活かす
- 日時：平成31年2月23日（土）14:00～15:30
講師：大江千束氏（LOUD/NPO法人共生ネット）

— 東京都委託事業 —

akta talk show

プログラムの目的：コミュニティへの情報共有、意見交換、普及啓発

対象になる人や施設：コミュニティの人たち、商業施設のオーナーやスタッフ、aktaボランティアスタッフ、HIVに関連した活動をしている人たち、LGBTs

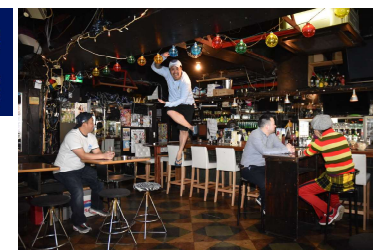
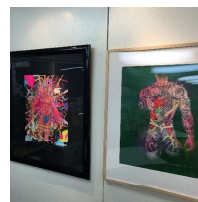
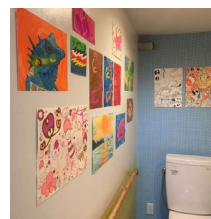
実施内容：

- ① 7月8日（日）17時～18時
Talk Show 「ゲイ・バイセクシュアル男性にとっての「性の健康」とは何か」
講師：池上千寿子氏（NPO法人ぶれいす東京理事）、長谷川博史氏（NPO法人ジャンプブラ）
- ② 9月1日（日）19時～20時30分
勉強会 「PrEPをめぐる日本の状況、世界の状況／MSMにみられる性感染症／SH外来の取り組みとそこから見える性感染症の動向」
講師：上村 悠氏（国立国際医療研究センター/医師）
- ③ 9月9日（日）17時～19時
Talk Show 「シドニーのエイズNGOのaconで働く日本人スタッフ、Dai Aokiさんにお話を聞く(1)Aokiさんがaconやシドニーでどんな活動をしているのか(2)いまaconやシドニーでどんなことがHIVやSTIsに関する活動で話題になっているのか(3)シドニーでのPrEPの取り組みはどうなっているのか」
講師：Dai Aoki 氏(acon)、岩橋恒太（NPO法人akta）
- ④ 9月17日（月）16時～17時半
勉強会 「U=Uキャンペーンはどのように生まれたのか」
講師：宮田一雄氏（エイズ＆ソサエティ研究会議事務局長理事／公益財団法人エイズ予防財団理事）
会場：community center akta協力：東京都福祉保健局



19

MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営

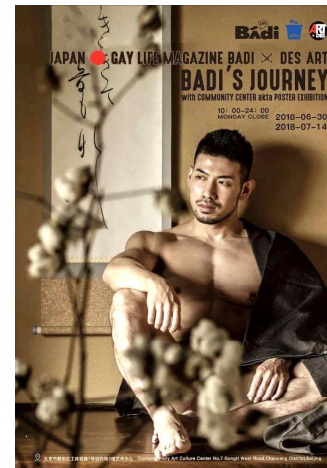


TOKYO RAINBOW WEEKSと連動するなど積極的に展示会の企画開催を実施。長谷川サダオ展では20日間で300人以上が展示を目的に来場。国内・外からの見学、研修、意見交換なども多々行われた。

連携によるコミュニティへの情報発信



北京「Destination」での展覧会



— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

akta café 2018



プログラムの目的:

「HIVcheck」による検査イメージとコミュニティ感覚のバランス。
若年層へaktaの利用を提案し、新規利用層へのcommunity centerとしてのaktaの認知度の向上。



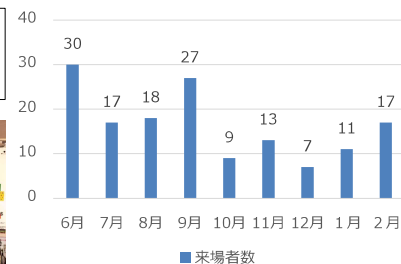
実施内容:

2018年2月にパイロット版を実施し、結果を踏まえ検討を重ねた上で、2018年6月よりcommunity center aktaにてcafe営業を本格始動する。メインターゲットは10代から20代の若年層。利益を目的としない営業範囲に留める。



結果:

平均来場者数は17名。
カフェスタップ目的や、Twitter、WEB媒体での広報、友達の紹介などによる来場理由が多くあった。
初来場者も多く、akta認知への繋がりも見られた。



アウトリーチプログラム

DELIVERY HEALTH PROJECT

目的：定期的に情報を届けてaktaの周知と普及啓発を行う



資
材
発
送

492ヶ所へ届ける、492ヶ所からの情報発信

新宿 2 丁目
ゲイバー170店舗
毎週金曜日
(第3週を除く)

新宿・大久保エリア
性風俗店14店舗
毎月第1金曜日

全国
MSMを取り巻く環境
毎月月末土日

行政機関 19件 / 教育機関 9件 / 医療機関 29件 / 研究機関 7件 / 保健所 51件 / HIV関連NGO 16件 / セクシャリティ関連NGO 9件 / 制作関係者 13件 / センター9件 / メディア関連 8件 / 企業 17件 / サークル5件 / その他 17件

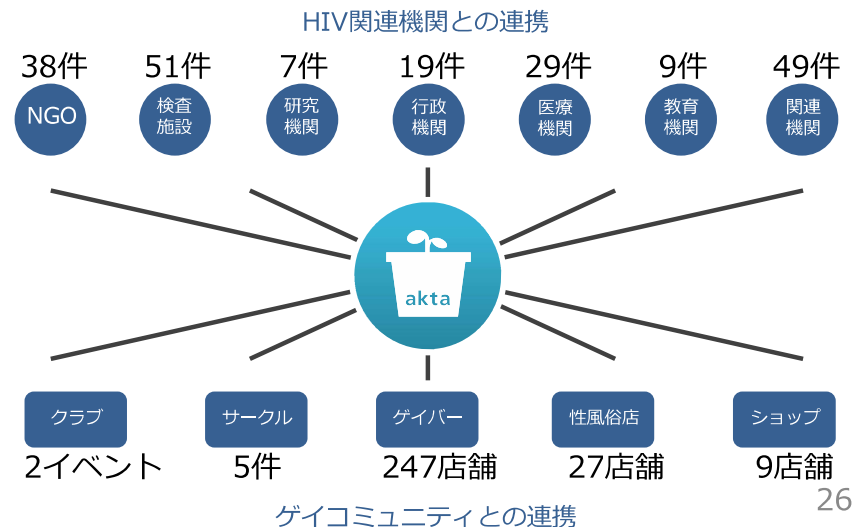
25

MSMが集まる商業施設に
顔と顔をあわせた定期的アウトリーチ

現在、上野・浅草・池袋・新橋・渋谷等の商業施設は郵送で対応
ゲイバー77件 / 性風俗店 13件 / ポルノショップ 9件

— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

啓発普及の基点（連携のハブ）



— 資材制作 —

akta monthly schedule

プログラムの目的：community center aktaの周知と、DELIVERY BOYSの配布店舗へのインタビュー記事を通し、活動をはじめ、HIVや性感染症へのイメージや二丁目のコミュニティ感覚について考えるキッカケづくりとして発信するフリーペーパー。(2017年4月より配布開始、BARインタビューは2017年8月よりスタート)



発行部数：各号5000部 発行、配布
配布先：新宿二丁目のBAR&クラブ/169店舗
その他商業施設(BAR&ゲイ向け風俗店 & ポルノショップ)/106店舗 保健所/51施設
行政・教育・医療・研究機関等/60施設 HIV関連NGO/16施設 その他関係者/21名

DELIVERY HEALTH PROJECT

プログラムの目的：セーファーセックスを身近に感じてもらうと共に、HIV/AIDSについて話す機会を提供する。また情報を届けると共に、街や店内の雰囲気や反応をキャッチしてくる。

対象となる人や施設：新宿二丁目を中心としたゲイバーやクラブの顧客と従業員
また、参加するボランティアスタッフも対象となる。

実施内容：毎週金曜日に、お揃いのユニフォームを着て、新宿二丁目を中心としたゲイバーやクラブにコンドームをはじめとした性の健康に関する様々なアイデアを配布(アウトリーチ)する活動です。

実施日時：毎週金曜日(第三金曜日を除く)の20時～22時
登録者数：110名(内毎回10～20名前後のスタッフが参加)
配布店舗数：169店舗
コンドーム配布数：
2018年度(年間53,511個)
1週間で約1,500～2,000個配布。
配布実施日数：39日



DELIVERY HEALTH PROJECT

勉強会：より一歩ステップアップするための勉強会を第3金曜日に
行っています。知識や意識の向上、ワークショップやイベントを企画を
したりなど。またスタッフ同士の交流や親睦を深める会なども行って
います。



デリフェス：普段お世話になっているBARのマスターやスタッフのみなさん。そして毎週のアウトリーチに協力してくれているデリバリーボーイズのみんな、関係している全ての人たちに感謝の気持ちを込めて『ありがとう』と『これからもよろしく』の2つのキーワードと共に送り出すイベント！

目的：いろいろな出し物を通し、デリバリーボーイズの活動の周知、またスタッフの顔見せなどをし、活動に対する支援や、スタッフリクルートなどを目的とする。

またデリバリーボーイズ自らが楽しむことで、活動をよりよくする（団結力や親睦を深める）

内容：今回は10回目の開催という事で、これまでの活動の軌跡をテーマとし実施。

関連企画としてデリヘル写真展示に加え、過去デリヘル関連記事の展示や、これまでのコンドームパッケージの展示を行った。

トークショーではOGスタッフをゲストに招き、過去と未来の活動について語った。

開催頻度：年に1度年度末での開催を予定。



29

予防行動促進プログラム

30

ー 予防行動促進プログラムの実施 ー

Safer Sex Campaign2018

プログラムの目的：コンドームをメインに据えたHIVとその他の性感染症の予防啓発。ハッテン場やバーのオーナー・スタッフとの関係性を強化し、Safer Sexを促進する環境を作る。

対象となる人や施設：都内を中心としたハッテン場、周知として二丁目のバー、クラブ。そのオーナーやスタッフ、および利用者。※ハッテン場のコンドーム配布店にはガイドラインを適用

実施内容:

・ハッテン場に合わせたエロティックなビジュアルをキーに、ポスターとバナーからランニングサイトへ誘導し、WEBから情報提供する。

制作物:

ポスター2種類、コンドーム2種類（1点ローション付き）、ランディングページサイト、バナー。

・ハッテン場では、ローション付きコンドーム1種を配布とポスターを提示。ローションを付けることによって、Safer Sexを楽しむことを応援する。

開催時期：2019年3月

31

Safer Sex Campaign 2018

<http://akta.jp/ssc/2018.html>



ポスターとコンドーム



- もっと詳しく知る HAVE A NICE SEX! <http://akta.jp/HNS/>
- A型肝炎について HIVマップ <http://hiv-map.net/hepatitis-a/>
- 梅毒他性感染症について 東京都性感染症ナビ <http://www.fukushihoken.metro.yokyo.jp/seikansensho/>

32

ー 予防行動促進プログラムの実施 ー

ALL JAPANによる広域の取り組み

プログラムの目的：

- ・各地域のCBOが顔を合わせて意見交換を行い、MSM対策を進めるための連携のボードを作る。
- ・研究班の協力の元、コミュニティセンター事業以外のCBOとも連携を深める。
- ・共通のプログラムを模索し、広域で取り組み、評価をする。

対象となる人や施設：各地域のCBOメンバー、各地域の主に商業施設利用者層

実施内容：



- コミュニティセンター (mabui, dista, rise, ZEL) 及びCBO(HaaTえひめ、NPO法人SHIP、にじいろ北海道、nankr沖縄、MASH大阪、ANGEL LIFE NAGOYA、やろっこ、JaNP+)と連携して、また研究班、エイズ予防財団とともに検討会議を実施した。
- 2018年度は研究班と連携して、A型肝炎流行のアラートをaktaが中心となり実施した。
- 研究班と協働して、プログラムの評価を行う。

結果：

- ・MSM対象のコミュニティアンケートで、A型肝炎の流行の認知は63.8%、キャンペーンの認知は65.2%だった。
- ・エイズ学会で合同ブース出展、合同パンフレット配布。

課題：遠距離ながら情報を共有し丁寧に進めていくこと。
具体的なプログラムと評価にどうつなげるのか。



33

ウェブを用いた ソーシャルマーケティング プログラム

35

ー 若年層への啓発普及 ー

もっと自分のカラダのことを知ってみよう



2013年度に作成したカード型資材「もっと自分のカラダを知ってみよう」の情報を更新の上、冊子化。

PDFデータがダウンロードできるウェブページを作成し、教職員がプリントして生徒に配布する事や、ティーンエイジャーがスマートフォンで情報にアクセスする事も可能。

www.akta.jp/karada

ウェブページの周知のためのカードを増刷した。

主な配布先：東京都福祉保健局の協力の元、都立高校192校。みなと保健所、岡山県総社市、鳥取県人権局、他研修会・講演会等

協力：ヴィーブヘルスケア株式会社

34

ー HIVマップ ー

HIVの総合情報サイト www.hiv-map.net

PC画面



HIVお役立ちナビ
予防啓発/検査/治療/支援などを紹介するリソース集

あんしんHIV検査サーチ
首都圏MSM向け検査情報提供

HIV/エイズガイド
HIVの基礎知識について、マンガとテキストで紹介

HIV/エイズ情報ファイル
HIVとMSMに関するデータ等を紹介

スマートフォン画面



スマートフォンでのアクセス数がPCでのアクセス数を越えた事を契機に、多様なデバイスで閲覧できる仕様に改訂

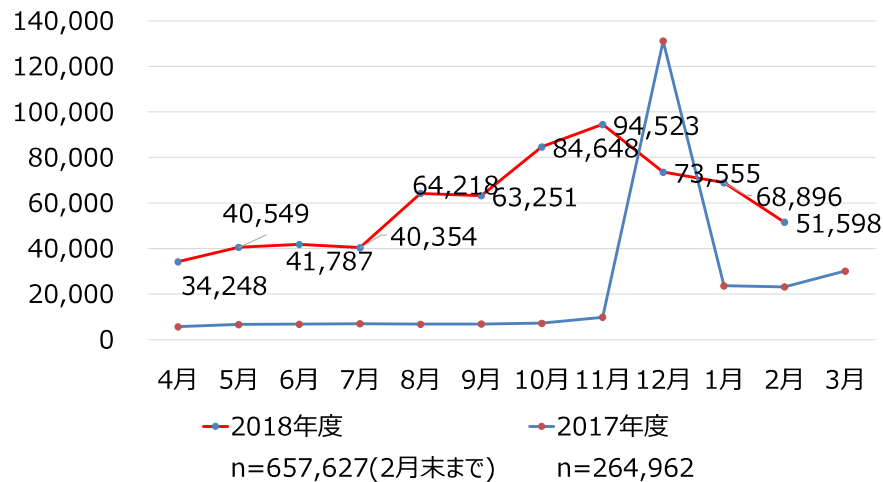
リーフレット



A4サイズのフライヤーを制作・配付

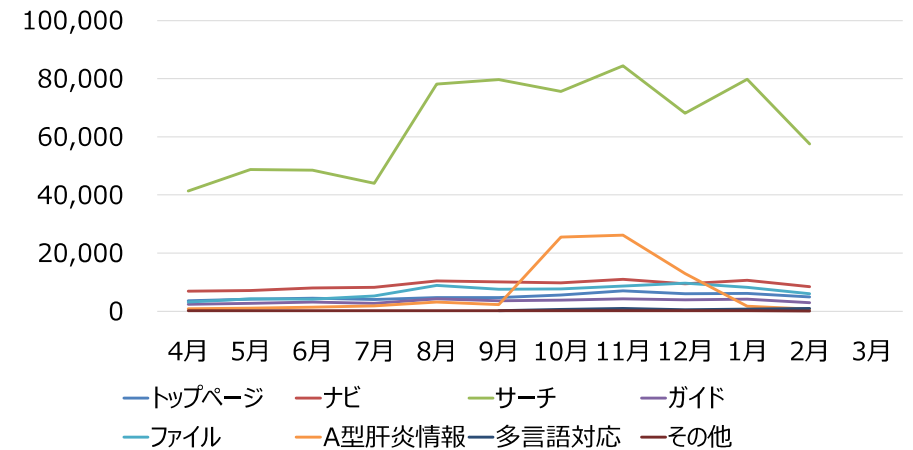
(厚生労働省受託事業)

2018年度 HIVマップ ユーザー数 月別推移



昨年度に比べ、2月の時点で2.5倍のユーザ数を記録した

HIVマップ 2018年度 コンテンツ別 アクセス数推移



HIV検査情報を扱う「ゲイ・バイセクシュアルにやさしい あんしん HIV検査サーチ」のアクセス数が年間を通じて最も多い。また、検査の「基礎知識」情報のアクセス数が増加。

HIVマップのトップページを改編



H.POT multilingual info. JAPAN

- 日本では、英語以外の外国語で性の健康情報を探したり、サービスにアクセスすることが困難
- 一方で、日本に來たり、住む外国人は増え続けていて、中国、台湾、韓国、アジア各国やブラジルなど南アメリカ出身の人たちは、すでに日本に多く居住
- 日本にいる、日本語を母語としないゲイ・バイセクシュアル男性のために、HIV/AIDSの基本情報をそれぞれの言語でまとめたウェブサイトを作成

H.POT multilingual info. JAPAN

- 中国語（簡体字、繁体字）、韓国・朝鮮語、タイ語、フィリピン語（タガログ語）、ベトナム語、ネパール語、スペイン語、ポルトガル語、英語、日本語の11言語
- HIVマップの制作チームが提供し、沢田貴志さん（シェア＝国際保健協力市民の会／港町診療所）、滞日外国人支援をされている団体・個人、海外の研究者・医療者、NOT ALONE CAFEのチーム、厚労省のエイズ対策政策研究事業「外国人に対するHIV検査と医療サービスへのアクセス向上に関する研究」などとのコラボレーションによって実現

41

アジア最大のパレード 台湾同志遊行 2018でアウトリーチ



akta.jp ～ウェブ上でのaktaへの入り口

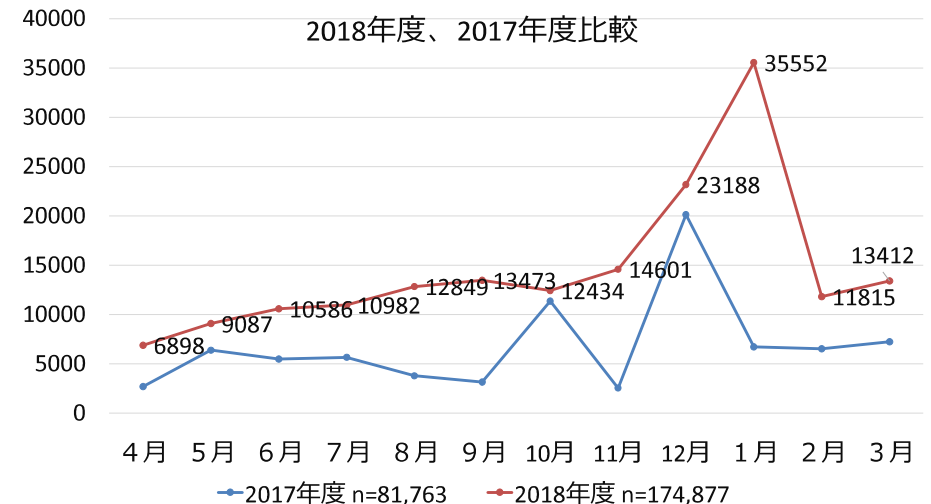


コミュニティセンターaktaとそのプログラムを紹介するサイト

- community center akta
- DELIVERY BOYS
- Living Togetherのど自慢
- [NEW!] akta café
- デリヘルくんが聞く!突撃インタビュー!!
- HAVE A NICE SEX!
- 特定非営利活動法人akta

43

ウェブサイト「akta.jp」閲覧者数推移



昨年度比**213.9%**と2倍以上の利用の増加、
have a nice sex!が**57.9%**を占めた

HIV検査普及プログラム と行政連携

45

検査環境の整備と検査行動の促進

戦略研究終了後、2011年4月からの取り組み

MSM首都圏グループ（NPO法人ぶれいす東京+NPO法人akta）+ 厚生労働省エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」

効果評価

厚生労働省エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」との連携による調査・効果評価の実施。

- ・MSMにおける啓発活動の広がりを把握するコミュニティでの質問紙調査

MSMを対象とした HIV検査普及・広報

- ・HIV検査普及のための資料の企画・制作
- ・首都圏地域のゲイ向け商業施設へのアウトリーチ

検査環境・相談支援の整備

- ・エイズ対策事業に関する意見交換会の開催
- ・HIV検査従事者に向けた研修会の実施（都県とMSM首都圏グループで実施）
- ・通常検査・臨時検査検査情報収集
- ・支援・相談情報提供 ウェブサイト：HIVマップ

HIVマップ



46

検査環境の整備と検査行動の促進

HIV検査環境について

目的と主な取り組み：

- ・MSMがあんしんして検査を受けられる環境を整備する
 - 自治体検査担当者に向けた研修会の実施、顔を合わせた意見交換の場の設定
- ・検査前後のサポートを担保する
 - ぶれいす東京、SHARE他との連携、資料開発、資料提供、相談対応他
- ・MSMを中心に据えた検査会への広報協力
- ・連携によりMSMがあんしんして受けられる検査の選択肢を増やすトライアルへの協力
 - コミュニティセンターaktaを基点とした「HIVcheck」の実施（MSM研究班）
 - 「快速あんしん検査上野駅」による東側地域での検査提供（検査勧奨班）

47

検査環境の整備と検査行動の促進

保健師（HIV検査担当者）研修会

東京都

東京都福祉保健局
健康安全室感染症対策課
エイズ対策係
●日付：2018年7月13日
●会場：東京都社会福祉保健医療研修センター 701教室

神奈川県

神奈川県保健福祉局
健康医療部健康危機管理課
感染対策グループ
●日付：2019年1月18日
●会場：神奈川県総合医療会館2階A会議室

千葉県

千葉県保健福祉部
疾病対策課
感染対策室
●日付：2018年9月28日
●会場：市川健康福祉センター

埼玉県

埼玉県
保健医療部保健医療政策課
感染症・
新型インフルエンザ対策担当
●日付：2018年11月13日
●会場：埼玉会館 7B会議室

プログラム

コーディネート：生島嗣／ぶれいす東京

- ① 開催都県のHIV/エイズ対策の共有
- ② アイスブレイク
- ③ 陽性者の手記リーディング（HIVのリアリティの共有）
- ④ セクシャリティへの理解と求められる配慮
- ⑤ MSMを対象にした研究結果・成果などから報告
- ⑥ 検査環境の取り組み事例の紹介と意見交換
- ⑦ セクシャリティに配慮した 模擬対応
- ⑧ 相談・支援に役立つリソース紹介/akta見学

アンケート

研修を通して…性的な話題への抵抗感を感じる人が少なくなった／身近にMSMがいる意識が高まる傾向が見られた／HIV陽性者の相談も他の相談者同様に対応する自信をつけた人が増えた

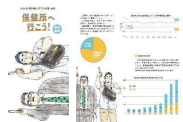
MSMへの理解を深め、MSMが安心して検査を受けられる環境整備 48

自治体が独自に予算化 行政と連携した検査環境の整備と検査行動の促進

東京都

東京都福祉保健局健康安全部

MSM対象の保健所マップの作成・配布



新宿区保健所

みなと保健所

ゲイのためのエイズ・性感染症検査
7/5, 12/6

新橋あしん検査
7/6, 12/7 夜間検査

ゲイのためのエイズ検査
9MONSTERS/バナー

新橋あしん検査
12/7 19:00-21:00
9MONSTERS/バナー



フライヤー・ポスター フライヤー・ポスター

埼玉県

埼玉県保健医療部疾病対策課

埼玉県検査情報ウェブサイト

草加市保健所

MSM限定検査会

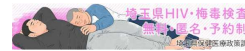
9/17~10/14 9MONSTERS



9/14 草加保健所



11/19~12/16 9MONSTERS



aktaとふれいす東京から相談対応のためのスタッフ派遣。



9MONSTERS & MEN'S NET/バナー

1/21~2/17 9MONSTERS 予定

49

— 行政連携 —

行政機関と連携した検査広報：千葉県

プログラムの目的：ゲイ・バイセクシュアル男性があしんして検査を受けられる環境を整備して、セクシュアリティに配慮した検査普及を行い、HIV感染の早期発見をし、エイズ発症により感染を知るケースを減少させる。



連携内容：ゲイに人気のアプリやネット媒体(9monsters、MENS NET JAPAN)にて、バナー広報を展開。セクシュアリティや地域性を考慮したイラスト、デザインでのバナー広報を展開した。

実施日程と施設：

- 1.平成30年6月3日(日)市川健康福祉センター(市川保健所)
- 2.平成30年8月26日(日)公津の杜コミュニティセンター
- 3.平成30年11月25日(日)松戸健康福祉センター(松戸保健所)
- 4.平成31年1月20日(日)浦安市民プラザ Wave101



制作物：受検者に対して、不安をやわらげる電話相談や感染予防の情報サイトの紹介など、HIV/エイズに対する理解を深められるような啓発資料を作成・配布する。

- ・受検者が持ち帰れるA7サイズの情報カード
- ・コンドーム

コンドーム



50

連携のもと検査普及を進めるに あたりみえてきた課題

- ・常にコミュニティや個々の声を聞きながら一緒に考えていく必要がある。
- ・コミュニティセンターの見え方やaktaの活動が検査に偏らないように、一次予防などとのバランスをとり続けていくこと。
- ・増加している外国人への検査機会と支援・情報提供の検討。
- ・広報協力をしている検査機関での予約枠のオーバー。
- ・行政担当者は常に異動があり、引き継ぎが十分に行われていないことがある。
- ・MSM対策の重要性が理解されないケースやNGOを安い下請けと勘違いされる場合もある

51

Living Together — HIVのリアリティを伝える プログラム

52

WE'RE
ALREADY
LIVING
TOGETHER.

HIVを持っている人も、
そうじゃない人も、
まだ分からない人も。
わたしたちはすでに、
いっしょに生きている。
WE'RE ALREADY
LIVING TOGETHER.

— 東京都委託事業 —

Living Togetherのど自慢

プログラムの目的： HIVを身近に感じる機会を提供する。

- ・陽性者の姿を可視化して、スティグマを低減し、誰もが生きやすい環境をつくる。
- ・自分の行動を振り返り、予防行動・検査行動へつなげる。

「Living Together計画」(多様性を伴った視点から「すべての人がHIVとともに生きている」というリアリティを共有するためのプロジェクト。ふれいす東京とaktaが呼びかけ団体)と協働。(東京都委託事業)

対象となる人や施設： MSM(男性とSEXする男性)とその周囲の人たち、コミュニティの人たち、行政、企業、医療者、支援者、NGO、LGBTs など

実施内容： 3人のコメンテーターが温かく受けとめる中で、5組の出演者が陽性者や周囲の人の手記の朗読、コメント、歌唱を行う。音楽と交流機会、情報を提供。出演者については、会場提供協力のバー九州男のママの紹介、ふれいす東京、DELIVERY BOYS,akta等のネットワークで多様性と集客を図る。



結果：

- 第50回 6月18日(日) 参加者40人、第51回 9月16日(日) 参加者68人
- 第52回 1月8日(日) 参加者60人、第53回 3月17日(日) 参加者79人
- * 毎回新しい出演者とスタッフ約20人で運営
- * 多様なセクシュアリティの人たち、ろう者の参加等広がりがある
- * 初参加者が多く、楽しみながらリアリティを感じている

— 東京都委託事業 —

akta tag tour

プログラムの目的：

HIVを身近に感じる機会を提供する。

- ・陽性者の姿を可視化して、スティグマを低減し、誰もが生きやすい環境をつくる。
- ・自分の行動を振り返り、予防行動・検査行動へつなげる。
- ・キーパーソンやグループとコラボレーションをして新しい層へ普及する。

「Living Together計画」(多様性を伴った視点から「すべての人がHIVとともに生きている」というリアリティを共有するためのプロジェクト。ふれいす東京とaktaが呼びかけ団体)と協働。

対象となる人や施設： MSM(男性とSEXする男性)と、その周囲の人。

akta tag tour vol.11 「Cross Border Cafe」 x akta tag tour

あらゆるボーダーを超えていこうとする人たちに贈る「Cross Border Café」と「akta tag tour」のコラボレーションイベント。HIVを持っていても、そうじゃなくても、私たちはもうすでに一緒に生きている。We're already Living Together.

2018年12月16日(日) 14時～17時

会場：新宿二丁目EAGLE TOKYO BLUE

入場料：1000円 別途ドリンク代

トークゲスト：田亀源五郎さん(漫画家/ゲイ・エロティック・アーティスト)

MC&パフォーマンス：ブルボンヌさん(MC&パフォーマンス)

パフォーマンス：肉襦袢ゲブ美さん(ドラァグクィーン)、JUJUさん(歌手)

長谷川博史さん(MC)、マダムボンジュール・ジャンジ(MC&ドラァグクィー)

DJ:JUNYAさん

主催：NPO法人日本陽性者ネットワーク・ジャンププラス、NPO法人akta

協力：Living Together計画、東京都福祉保健局、EAGLE TOKYO BLUE



55

WE'RE ALREADY LIVING TOGETHER



Photo 島崎ろでいー

調査・研究

57

— 特定非営利活動法人aktaについて 平成30年度 —

論文発表

- 1) Misao Takano, Kohta Iwahashi, Ikuo Satoh, Junko Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Toshiya Fukuhara, Hiroo Obinata, Yasuyo Nakayama, Yoshim Kikuchi, Shinichi Oka : Assessment of HIV prevalence among MSM in Tokyo using self-collected dried blood spots delivered through the postal service, BMC Infectious Diseases (2018) 18:627
- 2) 金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住のMSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年のHIV検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.
- 3) 岩橋恒太: 文献紹介「Recommendations for HIV Screening of Gay, Bisexual, and Other Men Who Have Sex with Men — United States, 2017」, 日本エイズ学会誌 vol.21 no.1, 2019.

58

— 特定非営利活動法人aktaについて 平成30年度 —

学会発表

- 1) 荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 藤原孝大, 阿部基兵, 岩橋恒太, 高久道子, 本間隆之: akta 来場者における来場経験別の来場目的、HIV検査行動、性行動、陽性者の身近さ. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 2) 木南拓也, 本間隆之, 岩橋恒太, 今村顕史: コミュニティセンター akta を基点とするアウトリーチ活動の効果評価. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 3) 岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史: MSMを対象とする、郵送検査手法を用いた新たなHIV検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 4) 岩橋恒太, 荒木順子, 木南拓也, 鈴木敦大, 生島嗣, 堅多敦子, 今村顕史: ゲイ・バイセクシュアル男性に向けたA型肝炎の注意喚起から見えること～コミュニティセンターaktaを基点とした経験から. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 5) 本間隆之, 岩橋恒太, 金子典代, 高久道子, 荒木順子, 木南拓也, 阿部基平, 藤原孝大: MSM向けクラブイベント来場者におけるHIV検査未受検者の特性. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4
- 6) 本間隆之, 岩橋恒太, 貞升健志, 長島真美, 生島嗣, 堅多敦子, 市川誠一, 今村顕史: HIV検査相談会「快速あんしん検査上野駅2017」の実施. 第32回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

59

— 特定非営利活動法人aktaについて 平成30年度 —

平成30年度の主な研究分担・協力

- 厚生労働省エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」研究代表者 金子典代
→ **HIVcheck.jp**
- 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV検査受検勧奨に関する研究」研究代表者 今村顕史
→ **台東保健所と連携したあんしん検査上野駅**
- 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究」研究代表者 今村顕史
→ **ALL JAPANの枠組みによるA型肝炎アラート**
- 厚生労働省エイズ対策研究事業「MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確立及びPDCAサイクル構築のための研究」研究代表者 塩野徳史
→ **コミュニティセンター機能に関するアンケート**

60



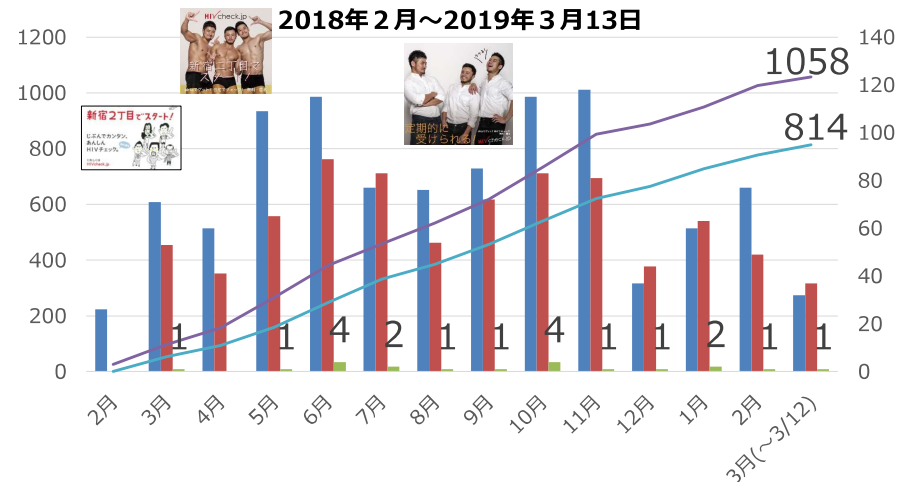
MSMを対象とする郵送検査手法を用いた、 新たな検査機会としてのHIV検査「HIVcheck.jp」の取り組み

岩橋恒太、金子典代、高野操、岡慎一、本間隆之、
健山正男、市川誠一、荒木順子、木南拓也、生島嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、
林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史

※本研究・取り組みは、厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業
「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」によって行われました。

HIVcheckのキット配布数と受付数の推移

2018年2月～2019年3月13日

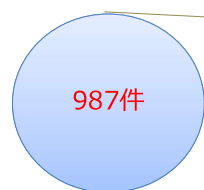


■キット配布数 ■受付数 ■スクリーニング陽性 —配布数 —回収数

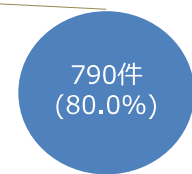
キット回収数814件(回収割合76.9%)
スクリーニング陽性数20件(暫定陽性割合2.5%) 相談数234件

2018年2月-2019年3月 起点別配布と検査実績

起点1:akta



ACC検査ラボ

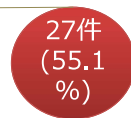


1月上旬までの
初回受け取り者
限定

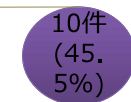
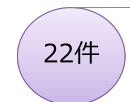


スクリーニング
陽性20件

起点2:都内ハッテン場(2回)



起点3:沖縄community center mabui
(3月末送付期限)



akta、ハッテン場
でキットを受け取り、
検体を送付した者での
推定陽性割合
2.6%
(95%CI :
1.44-3.73%)

研究デザイン

厚生労働省エイズ対策政策研究事業
MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究
「自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施」

対象

- (1)年齢20歳以上のMSM
- (2)研究説明同意文書を読み、研究参加の意思を示した者

配布期間

2018年2月下旬～2019年12月

目標参加者数

年間1,500キット配布

研究組織

研究代表者

名古屋市立大学 准教授 金子典代

分担研究者

特定非営利活動法人 akta 岩橋恒太

研究協力者

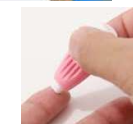
高野操、岡慎一(国立国際医療研究センター) … 検査の実施
荒木順子、木南拓也(NPO法人akta) … 検査プロモーション・
検査キットの配布

生島嗣(NPO法人ぶれいす東京) … 相談希望者への相談・支援
本間隆之(山梨県立大学) … 評価項目の分析
健山正男(琉球大学) … 他地域展開・研究計画の立案
小日向弘雄(東新宿こころのクリニック) … 確認検査の実施
今村顕史(都立駒込病院) … 確認検査の実施
市川誠一(人間環境大学) … 研究計画の立案

65

HIVcheckの流れ

1. 啓発によりHIVcheckを知る
2. aktaで同意書・アンケート記入、スタッフによる説明の後、HIV検査キットを受け取る
アンケートに同意者にのみ検査IDシールを貼付
希望者には専門相談
3. 自己穿刺血の採取
4. 検査施設へ紙を送付
5. 専用ウェブサイトでID・パスワード入力、
検査結果閲覧
6. 「確認検査が必要」な場合は医療機関予約と
相談・支援情報提供



66

HIVcheckが提供する検査の結果と 確認検査を予約できる医療機関

④ 結果をウェブサイトで確認する



- 本サイトの「検査結果を見る」から、緑色のカードに記載されたIDとパスワードを入力してログインし、結果を確認してください。
- 結果は結果が検査室に到着後2～5日(土日祝日も除く)で確認できます。
- 結果を閲覧できる期間は紙到着後90日間です。

結果表示	
ウェブサイトで見られる結果には、以下の3つのいずれかが表示されます。	
陰性	… HIVに感染していません。
判定不能	… 十分な検査ができませんでした。再度検査キットをaktaで受け取ってください。
確認検査が必要です	… HIVに感染しているかを確認するための精密な検査が必要です。

⑤ 「確認検査が必要です」となった場合



1. 国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター (ACC)
 2. 東新宿こころのクリニック
 3. 都立駒込病院
- 「確認検査が必要です」と表示された結果画面より受診予約が可能です(確認検査の費用は有料です/予約可能日時は医療機関によって異なります)。
 - HIV感染が確認された場合は、本研究の協力医療機関HIV診療を受けることができます。(有料)

2019年夏に、協力医療機関として
東京都南新宿検査・相談室が参画

1. 啓発によりHIVcheckを知る ウェブサイト、ゲイ向け出会い系アプリ、 ゲイ雑誌、ゲイ向け商業施設等で展開



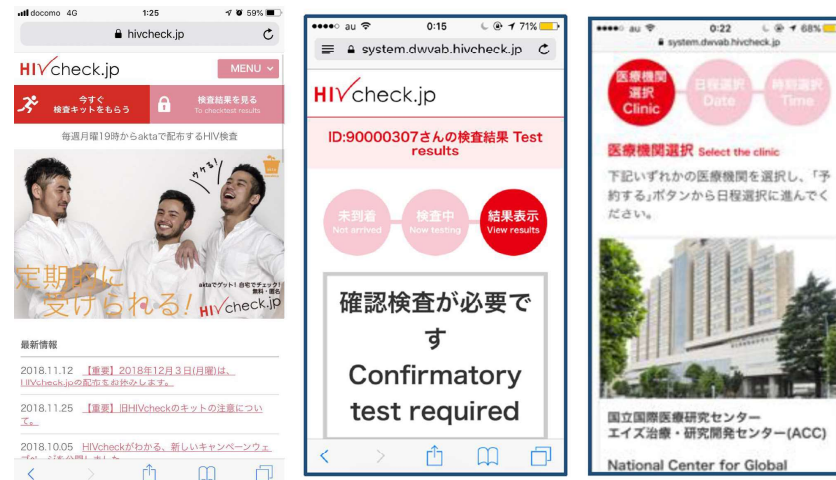
MSMの人気者のビジュアルとシンプルなメッセージで
HIV検査のイメージをやわらかくする
生涯初受検と、定期検査を促す

2. aktaでHIV検査キットを受け取る



毎週月曜日19～22時、トレーニングを受けたaktaスタッフが検査ガイダンスとキットを配布
必要に応じ、ぷれいす東京専門相談員が相談対応

5. 専用ウェブサイトで検査結果閲覧



検査施設に検査物が到着後、2～5日で検査結果表示
スマートフォン・PC対応、
ウェブ上でも随時相談・支援情報を提供

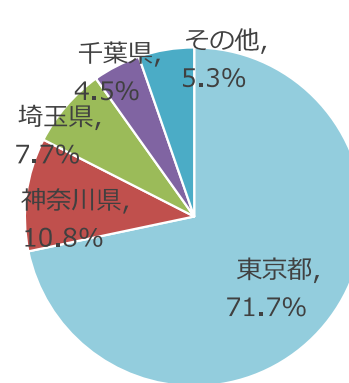
確認検査が必要になった方への相談・支援体制の整備



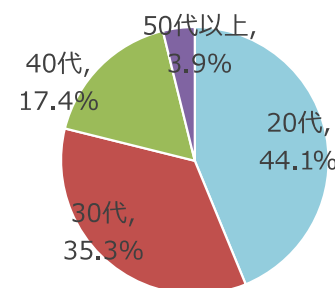
ぷれいす東京のポジティブライン電話相談の他、
ウェブチャット相談の情報も紹介

HIVcheck 検査キット受け取り者の背景 居住地、年代 n=640

以下、受検者アンケートの初回答者に限定して分析

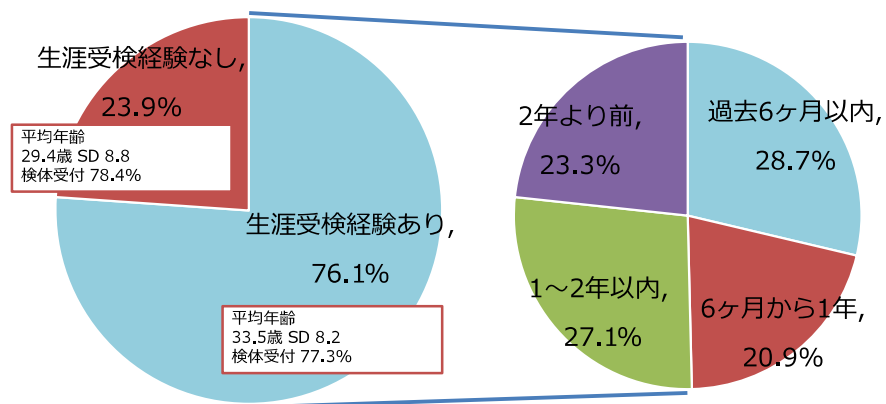


国籍
日本 90.6% その他 9.4%



年代	生涯未受検割合
20代	34.1%
30代	14.9%
40代	11.6%
50代以上	36.9%

生涯受検経験と最後の受検時期



トライアル 出張HIVcheck@都内ハッテン場 2018年6月、11月



- 6月 24名(aktaに行ったことがある 25%)
 - 11月 25名(aktaに行ったことがある 48%)
- 相談件数 5件

HIVcheckのもつモビリティの高さを活かして、
たまたまハッテン場において検査ニーズのある層、
aktaに受け取りに來られない層を対象に新宿にあるハッテン場で展開

他地域での展開 沖縄



2019年2月16日(土)
沖縄県那覇市 コミュニティセンターmabuiでトライアル実施

研究協力：琉球大学(健山正男先生他)、
nankr OKINAWA/コミュニティセンターmabui

2018年10月12日～16日 mabuiスタッフ向け研修(プログラムの組み立て
方ワークショップ、陽性者当事者・支援団体・医療者による講義)

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業
HIV検査の受検勧奨に関する研究
分担研究：MSMのHIV検査受検行動につながる支援
平成28年度から平成30年度

MSM向けHIV/梅毒の検査相談会 「快速あんしん検査 上野駅」の実施

山梨県立大学看護学部 本間隆之
thomma@yamanashi-ken.ac.jp

背景

- 新宿など東京都の西地域に比べて“東地域”では
 - 平日夜間や土日の検査施設が少ない
 - 集まるMSMの年齢層などが異なり、検査を含めた予防啓発が十分ではない可能性



東京“東地域”のMSMに向けたHIV検査相談会を実施

- 東京東地域における検査相談ニーズの把握
- 行政、NGOと連携した検査環境向上の検討
- 受検者の有病割合などの状況の把握

を目的とした。

受検がゴールではなく、
1個人に向けた健康支援として実施



- 新たな検査の広報戦略をaktaに依頼
 - 「快速あんしん検査」の名称とブランドを開発
 - 関連するイラストやロゴの開発
 - チラシ、webサイト、SNSへのバナー掲示などで展開
- aktaの持つネットワークを通じて発信
 - 上野のバーへ郵送
 - 上野のゲイ向けショップが利用客へのチラシ配布に協力
 - イラストレータさんからの発信
- 専門の相談員による相談
- 医師による検査の必要性についての説明
- aktaが発信するアトラクティブな演出「私たち目線」と、しっかりした作り込みの信頼感

検査会の広報 <http://akta.jp/an shin/> ・キャンペーンサイト

- マンガを用いた検査のポイント説明
- 相談・支援情報
- 検査の流れ
- 結果が陽性の後
- 治療
- 支援の情報

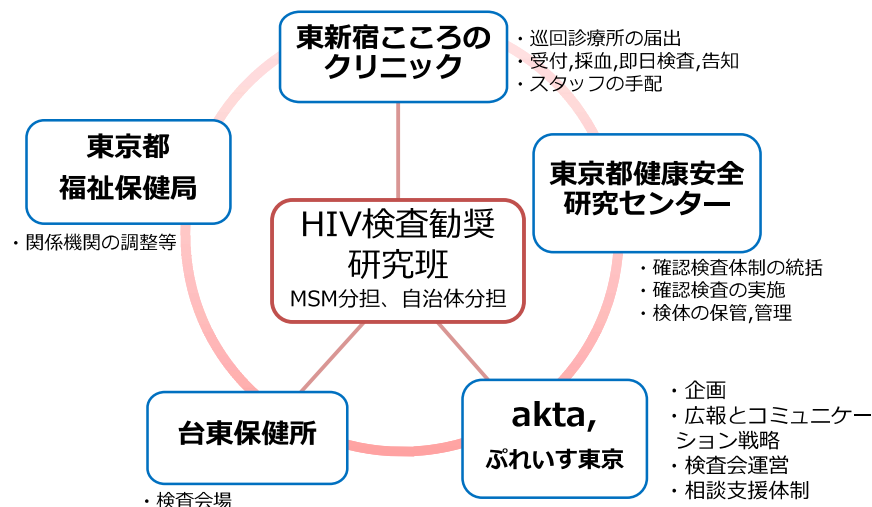


広報(2016年度)



- 受検がゴールではなく、1個人に向けた健康支援として、検査受検の意義と生活、治療、支援の情報を伝えた。

検査相談会：研究実施協力体制



快速あんしん検査上野駅 3年間

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
開催日	H29年1月21日(土)	H29年10月30日(月)	H30年12月14日(金)
受付時間	17-20時	17-20時	16-20時
場所	台東保健所	台東保健所	台東保健所
結果返却	採血から1時間後	採血から1時間後	採血から1時間後
確認検査の返却	翌日夕方(予約)	約1週間後(予約)	約1週間後(予約)
定員	100名	150名	180名
来場者	94名(定員超過)	137名(定員内)	160名(定員内)
都内在住:	67.0%	65.7%	63.5%
初受検者:	24.5%	15.3%	23.3%
平均年齢:	35.9歳	38.2歳	38.1歳
相談件数	9件	11件	7件
HIV(+)	4.2%	2.9%	1.25%
TPLA(+)	13.8%	22.6%	15.0%

アンケート結果より

- この検査相談会を選んだ理由
 - HIVと梅毒の結果が即日でわかるから
 - 来やすい場所だったから
 - 予約をする必要が無いから
- 全受検者388名中、初回受検者は、20.9%
 - 初回受検者のHIV陽性率、7.4%
 - 会場の保健所を前から知っていた、76.7%

まとめ

- 東京“東地域”におけるMSMのHIV検査、相談、基本的な予防情報に対する「ニーズは高い」
- 情報提供や検査提供は未だ「十分ではない」。
- 東地域への検査広報、保健所の場所の周知、梅毒即日検査の導入、相談や治療との連携の重要性を行政とともに認識
- 東地域を含めた、検査や感染症に関する支援情報が届いていない人たちへの、基本的な啓発が継続的に必要。

ゲイ・バイセクシュアル男性に向けた A型肝炎の注意喚起から見えること ～ コミュニティセンターaktaを 基点とした経験から

岩橋恒太¹⁾²⁾、荒木順子¹⁾²⁾、木南拓也¹⁾²⁾、鈴木敦
大¹⁾²⁾

生島嗣³⁾、堅多敦子⁴⁾、今村顕史⁵⁾

¹ 特定非営利活動法人akta、² 公益財団法人エイズ予防財団、
³ 特定非営利活動法人ぶれいす東京、⁴ 東京都福祉保健局、
⁵ 東京都立駒込病院

※本研究・取り組みは、厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業
「HIV検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究」によって行われました。

背景 MSM向けA型肝炎アラートの 経緯①

2018年2月

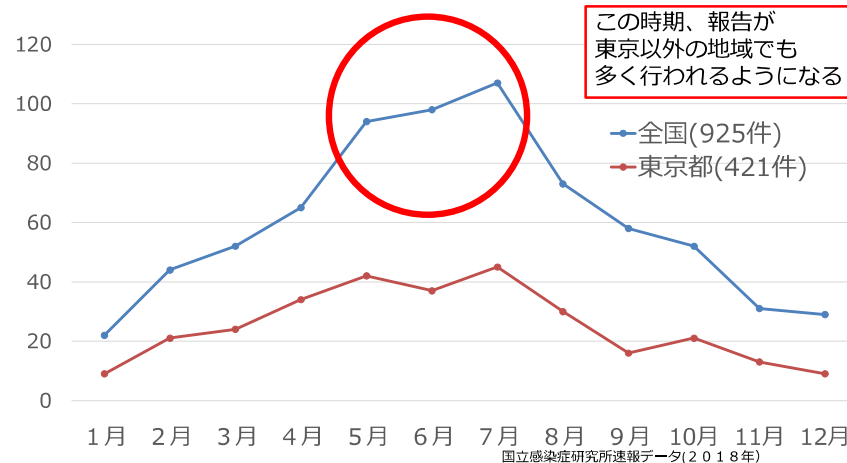
A型肝炎の流行状況について、主に東京にある拠点病院を中心に例年以上の報告が上げられてきていることを受け、
研究班から呼びかけがあり、研究協力者としてaktaも参加

↓

2018年3月、4月、5月 MSM向け啓発普及 東京展開

- HIVの総合情報サイト「HIVマップ」にA型肝炎に関する特設サイトを設置、啓発を開始
- 注意喚起の情報を掲載したポスター、パンフレット等を首都圏にあるゲイバー、ハッテン場等ゲイ向け商業施設にアウトリーチ
- TOKYO Rainbow Parade(2018年5月5日、6日)会場でパンフレット等を配布

2018年 全国と東京都の A型肝炎報告数推移



国立感染症研究所 IDWR速報データ 「全数把握疾患、累積報告数、都道府県別」

MSM向けA型肝炎アラートの 経緯②

A型肝炎が東京に限らず、全国で多く報告されるようになる

2018年7月18日 厚生労働省が各自治体、関係諸学会等へ
「A型肝炎患者の報告数増加に伴う注意喚起について」通達

↓

2018年10月、11月 MSM向け啓発普及 全国展開

- ゲイ全国誌でのキャンペーン展開
- 全国のコミュニティセンターとNGOsが参加・協力し、各地で啓発を実施 「ALL JAPAN キャンペーン」
にじいろほっかいどう、やろっこ/コミュニティセンターZEL、
akta/コミュニティセンターakta、ぶれいす東京、JaNP+、SHIP、
エイズサポート千葉、ANGEL LIFE NAGOYA/コミュニティセンターrise、
MASH大阪/コミュニティセンターdista、HaaTえひめ/BRIDGEプロジェクト、
nankr-OKINAWA/コミュニティセンターmabui
- ゲイ向けGPS出会い系アプリにて、全国に特設サイトの広報

方法 資材の開発と普及啓発

2018年3月、4月、5月

2018年10月～



東京を中心に男性の間で A 型肝炎が流行しています

東京で！から、全国で！へ変更



ゲイ向けGPS出会い系アプリ掲載バナー



名刺大 アクセスカード



ウェブサイト「HIVマップ」
A型肝炎注意喚起特設サイト
2018年3月公開開始
PV数 37,095件(2018年3～10月)

資材の開発と普及啓発のポイント

- 「性感染症」としてのA型肝炎が2018年、MSMの間で、東京および全国で流行していることを伝える。
- 予防方法としてワクチンがあると強調。
→ 日本渡航医学会、厚労省FORTHの医療機関データベース
- 当初ケツナメ(リミング)にポイントを置いた啓発を行ったが、あくまで経口感染であることから、行為を限定しすぎて強調するのを避けた。
- すでにA型肝炎に罹患した人の体験談を紹介。(ぷれいす東京の協力)
- 「A型肝炎＝ゲイ」という無用なゲイバッシングや、MSMがA型肝炎のことで医療機関にアクセスしにくくならないように、啓発を行う場所を限定。



ゲイ全国紙掲載記事およびパンフレット



ビジュアルにより受けいれやすく・わかりやすく、
病態の解説、予防方法としてのワクチン接種の重要性、
すでに罹患した人の体験談を伝える

結果 啓発の経験からみえたこと①

- A型肝炎が「性感染症」であり、また今年流行しているという認識が、ゲイコミュニティでも、また保健行政に関わる人たちの間でも、当初、十分に認識されていなかった。
- 1990年代末に起きた、首都圏におけるMSMでのA型肝炎の流行についても、アウトリーチ中に聴く声としては、あまり知られていない印象だった。

性感染症としてのA型肝炎流行の認知状況や
ワクチン接種行動などを把握するため、
MSMを対象とした行動科学調査が必要

結果 啓発の経験からみえたこと②

- A型肝炎の予防にはワクチン接種勧奨が重要だが、非HIV陽性MSMが利用しやすい、検査やワクチンを接種できる地域の医療機関の情報が十分に整備されていない。
→ 既存の情報集の多くは網羅的で、ユーザーフレンドリーではない
- ワクチン接種に必要な自己負担金額が大きく、A型肝炎の流行を知った後の実際のワクチン接種にハードルを感じる人が多く見られた。

まとめ

- MSMに向けたA型肝炎の注意喚起について、全国のNGOs・コミュニティセンターと行政、研究班、医療機関が中心となり、ゲイ全国紙やゲイ向け商業施設とも協働・連携しながら、実施された。
- 特に非HIV陽性MSMにとって、ワクチン接種を含めたセクシュアルヘルスの予防・治療について相談できる医療機関の情報について検討・整備が必要。
- 一般の医療機関において、MSMに限らず誰に対しても
偏見なく、受診者の健康にとって必要な検査が行われ、
必要なワクチン接種ができることが求められる。

おわりに — 課題 —

- 首都圏では戦略研究において成果を収めた後に、コミュニティセンターは国の事業化がされた。しかし、すでにMSMの若年層で感染増加が起こっており、中高年層のエイズ発症ケースも減少していない。
- 活動において、東京都福祉保健局、千葉県健康福祉部、埼玉県疾病対策課、新宿区保健所、港区みなと保健所、公益財団法人エイズ予防財団等と連携して啓発プロジェクトを企画・実施している。しかし、こうした取り組みも全てコミュニティセンター事業および、その社会資源がベースにある事で、実施する事が可能となっている。
- 治療と新たな予防方法が進歩している現在、引き続きHIV/AIDSのリアリティの共有を図るとともに、偏見・差別の低減をめざし、予防行動の促進と自主的な早期受検によるエイズ発症を抑えることが求められている。

